



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 分子イメージング連携特別講義



## Pharmacokinetic modeling of $^{18}\text{F}$ -FDG PET imaging and radiation risk evaluation in pediatric patients

Kitiwat Khamwan 先生

チュラロンコン大学医学部付属病院放射線科  
核医学部門 講師 (IAEA fellow)

小児患者を対象とした核医学検査時の被曝の問題は日本でも最近とくに重要視されています。Khamwan先生は、小児患者のFDG-PET検査時の全身臓器の被曝を独自の手法で評価し、Olindaプログラム等を用いた従来の線量評価法では被曝線量が過小評価されていた可能性があることを指摘し、被曝評価法の改善を提案して注目されました (Khamwan et al. EJNMMI Research.2016;6:28.

DOI 10.1186/s13550-016-0179-6. 米国Johns Hopkins大学時代の研究成果.)。

Khamwan先生はタイへの帰国後も診療放射線技師・医用物理士の業務に精力的に当たりつつ、IAEA fellowとして国際的にも活躍されています。本講演では先生のこれまでのご研究およびタイにおける臨床研究事情等についてもご紹介いただきます。

日時:平成30年10月22日(月) 16:30-17:30  
場所:サイクロトロンRIセンター分子イメージング棟  
2階 講義室

連絡先:  
医学系研究科機能薬理学分野教授  
谷内一彦(717-8056)  
東北大学サイクロトロン・RIセンター教授  
田代学(795-7797)